

「学校現場における業務改善加速事業」 3年次発表について

伊奈町教育委員会教育長

○平成29年6月より3年間にわたり、伊奈町では本事業に取り組んでまいりました。

その間、年3～4回の県教員の働き方改革推進プロジェクト委員会において、毎回報告、発表の場をいただき、協議し、助言をいただいております。

今回は、県プロジェクト委員会の最終回にあたり、これまでの伊奈町の3年間の取組について、発表させていただきます。

○3年間の事業の推進にあたっては、文部科学省から示された各年次の「委託事業の公募の内容」に応じて、事業計画書を作成（伊奈町の取組については、これまでの実施状況や進捗状況などをもとに、小中学校人事課が原案を作成し、伊奈町教育委員会が修正する）し、文部科学省の審査を受けました。

幸い、埼玉県は3年間とも審査をとおり、3年間継続して、委託を受けての事業に取り組むことができました。

その中で、留意したことは、伊奈町の実態や取組の積み上げ、継続性を大切にすることです。研究のための研究になった場合、学校現場にとって負担が増すだけだからです。

とはいえ、委託事業であるため、当初考えた伊奈町としての3年間を見通した継続性、一貫性からはずれる内容もありました。例えば、SSS配置は、本事業からはずされ、別事業となりました。1年ごとに、事業内容に新たな課題や質の高まりが要求され、伊奈町教育委員会、学校現場ともに戸惑いがみられることもありました。そのような中でも、取組を進めることによって、結果として、研究（事業）の推進につながりました。

○今回、3年次の発表に向けて、1年ごとに推進し、積み上げてきた伊奈町の3年間の取組内容を整理してみました。

まず、最も重要なことは、業務改善・働き方改革を進めることの「方針・目的」を明確にすることであり、それに基づき「年間計画」を立てることです。

これは、文部科学省の「委託事業の公募の内容」をもとに町としての取組内容を県教委の助言のもとに事業計画書を作成し、そして「業務改善ポリシー」の作成からスタートしたということです。

本資料においても、このことについて、全ての内容の中で、まず最初に整理しました。

○次に、様々な事業について、4つに分類をしました。

- A 学校で主に行っていること
- B 町教育委員会から学校へ通知、依頼し、行っていること
- C 会議及び研修会等
- D 町教育委員会が中心となって行っていること

そして、そこに当てはまる各方策（事業）を位置付け、それを縦軸にしました。今回は、31方策を取り上げてあります。

○次に、横軸に、各事業の目的を、次の5つに分類しました。

- [1] 意識改革（管理職、教職員）
- [2] 業務の効率化（行事、会議、教材研究 等）
- [3] 本来業務の充実（学力向上・生徒指導）

[4] 学校の連携（保護者、地域、行政）

[5] 組織体制の構築（効果的・効率的）

縦軸の31の各方策について、横軸の目的のいずれに該当するか、クロスする枠内に具体的に記録しました。

○次に、1～31までの各方策について、実践の概要を、1シートずつ作成しました。必要に応じて、別冊の資料編に補充資料を添付してあります。

実践の場の多くは、学校ですが、各学校には絞って作成してもらいました（拠点校各4事例、その他の学校各2事例）。町教育委員会で作成したシートには、各学校での実践内容も多くまとめてあります。したがって、全シートとも、学校現場の実践記録と言えるものです。

○本日の発表においては、本年度事業の特色ある取組である「働き方モデルの確立」については、現在まだ作業中であり、報告資料を示すことができません。次の報告書作成等において、研究成果について提示し、次年度以降の実践に生かしてまいります。

○「伊奈町働き方改革基本方針」については、国のガイドライン、県の基本方針をもとに、伊奈町の基本方針を、町教育委員会で原案を作成し、校長会や町業務改善プロジェクト委員会から意見をいただきながら、作成してきました。本日も、確定直前のものを示しました。

伊奈町の基本方針の特色は、3年間の研究の成果を反映させ、国や県の在校等時間の超過勤務時間の内容を盛り込むだけでなく、「伊奈町教育委員会業務改善ポリシー」の「改善目標（KPI）」から、6つのうち5つについて取り上げたということです。それは、時間の削減だけが目標ではなく、教員が本来業務を行い、「子供たちの笑顔があふれる学校」を目指すことであることから、それを含めたところからです。

○なお、最後のまとめの章では、「伊奈町教育委員会業務改善ポリシー」の「改善目標（KPI）」について、令和元年10月にまとめたデータを示しました。あわせて、まだ最終段階ではありませんが、今回の資料作成にあたって各学校の取組、及び各事業の取組から挙げられた成果や課題についてもまとめました。

○これまでの取組により、教職員の意識の変化、行政と学校の一体感のある各種取組の推進、さらに、地域住民や保護者による熟議から理解、共感、支援への動き、学校運営協議会の令和2年度全校設置など、大きな改善・改革が進んでいます。

委託事業は、ここで終了することになりますが、来年度からの取組こそが本当の意味での「子供たちの笑顔があふれる学校」づくりになっていくと考えています。

「これからの時代を生きる教師を育てる」ためにも、また、「これからの時代を生きる子供を育てる」ためにも、さらには、「魅力ある教職」を復活させるためにも、引き続き、取り組んでまいります。

○これまで、県プロジェクト委員会の、「伊奈町の取組を、当事者として一緒になって推進し、支援することが、この委員会の役割の一つである」ということに支えられ、市町村支援部長・副部長や小中学校人事課長、同学校管理幹、同担当管理主事等の伊奈町訪問を何度も受け、助言され、今日を迎えることができました。

心より、感謝申し上げます。